

第 2 回佐倉市総合計画審議会 要録

日 時	2023 年 8 月 10 日（木）9 時 00 分～11 時 30 分
場 所	佐倉市役所 1 号館 3 階会議室
出席者	委員出席者 9 名 （会長）岩渕 明弘 （副会長）押尾 豊幸 （委員）安藤 豊明、大嶋 和俊、清水 一巳、高木 伸雄、林 洋太郎 山田 周、吉川 圭子（五十音順）
事務局	和田企画政策課長、小田、齊藤、岩井
各所属参加者	社会福祉課（小林課長）、こども保育課（清野副主幹）、こども家庭課（佐藤課長）、母子保健課（緑川副主幹）、こども政策課（上野課長）、介護保険課（林田課長）、高齢者福祉課（松本主査）、障害福祉課（土屋主査）、健康保険課（橋本主査補）、健康推進課（佐久間主査）、学務課（小林主幹）、指導課（神成主幹）、教育総務課（平野副主幹）、社会教育課（照井主査）、生涯スポーツ課（遊佐課長）
議 題	（1）中期基本計画素案（第 1 章、第 4 章）の主な変更点について （2）意見・質疑応答 （3）事務連絡
配布資料	資料 1 （1 章& 4 章）中期基本計画基本施策（素案） 資料 2 （1 章& 4 章）前期基本計画からの主な変更点
傍聴者	0 人

（1）中期基本計画素案（第 1 章、第 4 章）の主な変更点について

事務局説明

- ・前期基本計画との変更点は資料 1 で下線表示している。
- ・主な変更点（資料 1 黄色表示）については資料 2 のとおり。

（2）意見・質疑応答

第 1 章

（委員）

現状値はいつ時点のものなのか。

（事務局）

現状値は令和 4 年度末、一番直近の数値がそれ以前の場合はカッコ書きしている。目標値は令和 9 年度末。

(委員)

前期基本計画の中で掲げられた課題については 12 年間ずっと引きずっていくものなのか、それとも改善がされた事項については何点かあるのかどうか。その点を踏まえて施策を展開していくのか、そのあたりを確認したい。

(事務局)

基本的には 4 年間の計画を作る時の現状と課題を整理している。

(委員)

1-5 健康づくりのうち特定健康診査受診率については、課題の中で特定健診の受診率が伸び悩んでいると挙げているにも関わらず、目標値を下げるというのはどういうことか。

(健康保険課)

特定健診の受診率はこれまで最高で平成 30 年度 35.7%まで上がってきていたが、その後令和元年度からの新型コロナウイルスの影響で受診率の低下があり、令和 3 年度受診率 30.5%の現状になっている。この現状を踏まえて令和 9 年度までで 1 年間に 2% ずつの上昇を見込み目標値の設定をしている。

(委員)

他にも現状値が 4 年前よりも下がり目標も下げているのが見受けられるが、4 年前の目標値はそのまま残しておいた方がいいのではないか。民間企業だと成績の下方修正はあるかもしれないが、長期のケースだと残す方が多いと思う。

(委員)

特定健診と違い、がん検診は現状値が下がっているのに目標値は上がっている。どのような考え方なのか。

(健康推進課)

がん検診の受診率については新型コロナウイルスの影響で受診率が低下したことが原因で現状値が下がっているが、令和 2 年度から徐々に増加傾向にある。目標値を上げた理由は、国の「第 4 次がん対策推進基本計画」が令和 5 年度からはじまり、その目標値の 60%に合わせたため。

(委員)

物事の継続性が重要だと思う。そのため、指標を変更した意図が分かるような表現にすべき。

(事務局)

この指標にするのかといった根拠が表現しきれていないというのは、前期基本計画に

も言える。そういった説明をできるような方法を考えていきたい。

(委員)

子育て支援は佐倉市にとって重要だと考えており、人口問題、市の魅力を高めるという視点も子育て支援に密接に関わってくると思う。提案であるが、成果指標の中に例えば「子育て支援の拡充により結果的に若い子育て支援の住民が増える」といった積極的な指標を入れられないか。

(委員)

子育て支援の施策の多くが家庭支援、子育てをする側の支援。ここに可能であれば子供たち及び子育てに関わる人達の文言を考えていただきたい。

(事務局)

各課と相談して考えたい。

(委員)

1-3 高齢者福祉の指標「認知症高齢者声かけ訓練参加者数」について、訓練に参加した数が増えたというのはいいことだが、実際にどれだけ声かけをしたのかというさらに深掘りする指標も入れるべきかと思う。より本来の成果に結びついた指標になるのではないか。

(事務局)

前期指標「認知症サポーター数」からさらに実践的な指標に変えたのだが、さらに実践的になると各課と相談して考えたい。

(委員)

1-1 地域づくりの施策 1「庁内の体制を検討しながら」を加えた意図をお尋ねしたい。

(社会福祉課)

相談支援を充実するという意味での庁内の相談は、それぞれの分野では今も行っているところだが、横の連携がさらに必要だろうと考え、そこを重視する形での表現とした。

(委員)

佐倉市は暑くて湿気が多い。熱中症になりやすい地域で高齢化が進んでいる中、一人暮らしの高齢者への声かけも重要だが、包括的な支援、クーリングシェルターといった横ぐし的な取り組みも必要だと思う。有機的に各施策がつながればいい。

(事務局)

クーリングシェルターに関連すると佐倉市は涼みどころを昨年から設置しているので

事業内容に入れることについて、関係課と検討したい。

(委員)

1-3 高齢者福祉で、通いの場を取り上げたのは個人的にはいいと思っている。子供も高齢者も「場」がないのでそのような取り組みも横断的に入れたらどうか。

(事務局)

どう表現するのか等について、事務局の方で持ち帰りたい。

(委員)

高齢者が長年の知見とかを子供に教えるような機会は高齢者の生きがいにつながる。その点もうまく連携し、教育とも結びつけていければいい。

(事務局)

市長からもそのような話があった。学校児童が少なくなってきたのでそこに高齢者の居場所を設けるなど、高齢者と子供が触れあえる機会をどこかに設けたい。場所の問題もあるのですぐにはいかないが事務局で持ち帰りたい。

(委員)

子育て支援の包括支援センターなどを一体的に運用していくなどの動きもある中で、一体的に支援を打ち出すことが可能か、どのような方向性で取り組んでいくかを知りたい。

(こども家庭課)

こども家庭課と母子保健課の方で支援センターのあり方を検討しているところだが、まだ方向性は決まっていない。

(委員)

1-3 高齢者福祉の現状について、要介護認定率、介護保険料ともに低いということは喜ばしいことだと思うが、施策 4 では「要支援・要介護認定者数は増加している」とある。この関係はどういうことなのか。認定は追いついているということなのか。

(介護保険課)

認定率は確かに低いですが、これは前期高齢者割合が高かったことや、介護の事前予防の取り組みが成果を出しているのではないかとというのが原因として考えられ、その分給付サービスが増えなければ介護保険料も抑えられる、というしくみではあるが、そういった現状がある中でも後期高齢者数が増えてきている現状は変わらないので、申請者数、或いは認定者数は増えており、県と比べると低いですが、全体的な増加傾向というのは佐倉市も同じ。そういった状況を踏まえて適切な介護保険サービスを行いたいと考えている。

(事務局)

高齢者の分母が増えているのでその分認定者数も増えているが、その中でも元気な高齢者が増えていると言えるのでは。

(委員)

1-4 障害者福祉の目標値について前期と表現を変えているものがある。前期の方がいい表現な気がする。また、目標値が「延伸」になっているものもあり、長ければ長い方がいいのだろうがもう少し数値化することはできないのか。

(健康推進課)

健康寿命の「延伸」については、少しでも永く健康でいてほしいとの思いからあえて数値目標は定めていない。

(障害福祉課)

障害者福祉の目標値については、国が定める目標値が定められており、その数値をスライドさせている。それに基づき、「計画期間中に8人」ということでこのような表現にしている。

(事務局)

目標値の設定理由について、巻末資料での表現を検討したい。

(委員)

佐倉市の大きな現状として人口減少という課題があるが、子育て、高齢者の施策が大事だと思う。例えば子育て世代の人口などの大きな目標を持っておかないと。佐倉市の適正人口や子育て世代の割合などがあると思うので、まずそういった目標を設定してほしい。また高齢者については「元気で長生きしてほしい」というのが基本なので、地域でも高齢者が集まれる場所の確保なども大事だと思うし、目標値はある程度持っていた方がいいんじゃないかなと思う。

(事務局)

子育て施策や高齢者福祉などの施策と総合戦略を結び付けられるかどうか事務局としては検討したい。

居場所づくりについて、公民館などの公共施設は市でも把握はできるが、民間など把握しきれない部分もある。

第4章

(委員)

学校のプールが老朽化し修理ができず、プール授業が中止になってしまっている。プールは修理しないなどの流れがあるのか。予算次第だろうがもう少し整備してもいいのではないかと思う。

(事務局)

現状、佐倉小と西志津小のプールが老朽化し直すことができていない状況。そこは民間のスポーツクラブにプール授業を委託していた。ここ数年はコロナで授業が中止せざるを得ない状況で、使わないとその劣化も進みやすい。検討中の施設再配置の中でプールの改修についても検討に挙がると思う。いずれにせよプールを修理して使うかどうかについては委託の選択肢も含めて今後の課題だと思っている。

(指導課)

プール授業は環境があれば実施するよう学習指導要領に書いてあるので、基本的にプールがある学校はやっていく一方で、無い所はプール授業をやらなくていいということになっている。ただ、水の危険性を知らせるためにも重要な指導と捉えているため、なんらかの形での実施を検討しているところ。

(委員)

4-1 学校教育について。成果指標記載の活用力とはどういうことか。

(指導課)

佐倉市の方で学習状況調査というものを独自で行っている。小学1年から中学3年まで受けているテストの中で、基礎学力に関する問題と活用力に関する問題に分けて行っている。この活用力については国語と算数で出題しており、例えば新聞から出す問題やグラフや図から読み取って解く問題など、そういった情報活用能力も含めたリテラシーを意識した問題として出題している。そういった活用できる問題が正解するかどうかということ。

(委員)

これは目標値が現状値より下がってしまうのはなぜか。

(指導課)

例年70%前後で推移しているが低い年もあるので、最低限70%は取ってほしいという意図で入れている。

(委員)

関連して、前期基本計画には注意書きで「問題の難易度を高めるため目標値を70%とする」と書いてあるので、2023年度に目標値を達成している児童については当時の現状値よりも活用力は高まっているという評価になると思うが、同じように、さらに難易度を上げたうえで目標値を70%と設定するのか、或いは同じ現状維持で基準値とし

て70%を超えてもらいたいのか、どちらの認識なのか。

(指導課)

基準値として考えているところなので普遍的な形に近い捉え方になるが、ここについても根本から見直しが必要という意見も出てきているのも事実。

(委員)

学力の捉え方もその時々で変わってきている。その辺の説明もどこかにあるとわかりやすい。

(事務局)

活用力に関する質問もそうだが、やはり説明不足な部分があると思う。基準値なので上であればあるほどいいが、そういった説明を資料に入れられるよう検討したい。

(委員)

「学習状況調査における平均正答率」は子供たちの正答率を上げるということ。これを上げるためにはどうすればいいのか。「教員の指導力向上」という文言があるが、指導力が悪いから正答率が下がるのか。学力を向上させるというのは誰の責任になるのか。

(指導課)

先生方の指導力、教え方は重要だととらえており、常に教職員というのには研究とともに努めると謳われているところ。教科書も変わる、学習指導要領も変わる、それに合わせて先生の指導方法もアップデートしていく必要がある。その中で子供たちの学力向上につなげていくように考えている。

(委員)

教職員の日々の努力をどうとらえるかや、学校としての質がどう上がったかについては、評価が別にある気がする。

(事務局)

施策としては現場の先生方がやることが市としてできることだと思っている。また各学校で特色ある教育を進めているかと思うので、それらを統合した目標にするにはやはり子供たちの学力向上という指標になると考えている。やはり子供の学力においては個体差があると思うので、なるべく平均を上げていこうという目標にし、市としてできることを施策に挙げている。

(委員)

各学校の学力平均というものがあるなら、それは指導力の変化につながるんじゃないかと思う。

(委員)

最近改定された学習指導要領で挙げられているのが「持続可能な社会の作り手を育成していく」ということ。そういった視点が欠けていると感じた。学校の先生だけでは担いきれないので、地域の色々な団体の力もぜひ。教職員の指導力向上ももちろん重要だがそれだけでは多様化した課題に応えきれない。ぜひ地域の団体との連携も取り組んでいただきたいし、そのひとつの手がかりとなるのが佐倉学。佐倉学の担い手の育成も入れるとおもしろいんじゃないか。

(事務局)

担い手育成に関しては 4-1 学校教育と 4-3 生涯学習にも関わってくるところ。その点も含めて検討したい。

(委員)

今年から「幼保小の架け橋プログラム」が取り組まれている。そういった内容も主な事業内容に落とし込めれば具体的な実行にもつながるのではないかと思う。

(事務局)

子育て支援にも関係してくるので、どちらに入れるか、或いは両方に入れるかも含めて検討したい。

(委員)

体力テストは学校教育に含まれないのか。子供の体力向上の一環であると思うが含まれないのかが素朴な疑問。

(指導課)

もちろん体力テストも含まれる。知・徳・体の3つを育成することが求められている。そこは表現できていない部分だったので検討したい。

(委員)

4-2 教育環境について。指標の「トイレの洋式化実施校数」について、今小中学校では洋式になっていないのか。

(教育総務課)

和式が残っている学校もあり老朽化での入れ替えを行っている。現状では17校、目標値34全校を実施していきたいと考えている。

(委員)

オール洋式が17校ということか。

(教育総務課)

そのとおり。工事が終わったのが 17 校で、今後全ての学校を進めていくということ。

(委員)

学校数でもいいが、実際のトイレ個数の割合の方がいいのではないか。

(教育総務課)

洋式化率は出していたはずだが今資料が手元にない、持ち帰らせていただきたい。

(委員)

関連して、全然手を付けていない学校はあるのか。

(教育総務課)

小学校は半分以上が全て終わっており、今後小学校が終わり次第中学校も着手していく。現状値 17 校は全て小学校。

(委員)

ということは中学校は全部和式なのか。

(事務局)

和式が残っている学校もあるという状況。

トイレの洋式化工事は費用が高額のため、国の交付金をもらいながら徐々に進めていく。令和 7 年度完成を目標に計画的に請求をしているところ。

(委員)

成果指標「学校が楽しいと感じる生徒の割合」について、現状値 90.1%で令和 3 年度 92%。この下がった要因はなにか。

(指導課)

集計している部署が別にあるため、持ち帰って確認したい。

(委員)

下がったこと云々ではない。すべての子供が楽しいと感じるのが理想だと思っているので、できる限り努力をしていただきたい。

(委員)

課題の「通学路の安全」、八街でも大きな事故が発生したこともあり意識していると思うが、課題に挙げている以上、施策の中に盛り込んでいったらどうなのか。また「地域との連携による登下校の安全見守り活動」は施策 2、施策 3 のどちらに入れるべきなのか。

(事務局)

施策に反映されていないが、八街市の事故を受けてインフラ点検を行っている。

(教育総務課)

施策 2 の方が主にスクールガードボランティアなど人的な部分で見守りをしていくということで、3年に一度の点検やそれに伴う改修工事は施策 2 と 3 にあたると思う。そこを分けて入れていただければと思うが持ち買って検討したい。

(委員)

「GIGA スクール構想に基づいた学習環境の整備」とあるが、児童・生徒向けの個人向けの整備はかなり進んでいると思う。足りないものの指標があればそれを用いればいいと思うので、ご検討いただければ。

(教育総務課)

電子端末については全児童 1 人 1 台の整備は終わっている。足りないものとして、Wi-Fi 環境が体育館等多少入りづらいところがある。その整備に向けて計画をしているところなので、目標値が定めれば公表することもでき、検討しているところ。

(委員)

1 点目、4-2 成果指標②と③について、現状値が前回より下がったことにより目標値も下方修正したようだが、せめて前期と同程度の目標にすべきではないか。

2 点目、教育環境としてのこどもの権利尊重の体制についてはどうなっているのか、実情を教えてください。

3 点目、トイレの洋式化だけではなくエアコンの整備も気になる。今の小中学校のエアコン整備率はどうなっているのか教えてください。また、通学路での熱中症対策についても取り組んでもらいたい。

(事務局)

空調について、小中学校では普通教室の整備は終わっている。体育館等の特別教室は整備がまだだが、今年度、防災対策の一環として冷風機を入れようとしている。

(教育総務課)

熱中症対策については、指導的な内容で対応していくのはかなり厳しい状況。子供に先生を通して十分な休憩をとるよう徹底するしかないと考えている。

また目標の下方修正について、特に②「ボランティアに協力したことがある市民の割合」について説明したい。コロナ前は体育祭前の草刈や運動会の駐車場ボランティアなど、やるものがたくさんあったのだが、それらが全てコロナで中止になってしまったことが現状値の下がった理由として大きい。目標値を下方修正したのは、PTA の意見も

踏まえ校外パトロールを縮小した経緯もあり、教員の働き方改革にもつながり、そのままの目標値を設定するのはどうなのかと考えたため。ただこの先、体育祭なども復活してくると思うが、今までやってきたことをスリム化するという視点で目標値を下方修正したということ。

(事務局)

先程お話したとおり、すぐには対応できないが巻末資料への表現を検討したい。

(委員)

指標②はどのような調査をして算出しているのか。

(事務局)

毎年無作為抽出で実施している市民意識調査で回答いただいた方になる。

(委員)

統計を用いるということはその統計が有効なものか判断しないとイケない。市民の目線で見ると、市民のうち22.6%もボランティアに参加したことがあるのはすごいと思える。目標値については佐倉市民の25%を目指すということだが、本当にそのような判断でいいのか。

(事務局)

再度検討させていただきたい。

(委員)

4-3 生涯学習について、指標②と③、実際の公民館・図書館の稼働はどうなっているのか。

(社会教育課)

公民館については特に統計を取っていないものの、志津などは抽選が行われるほどの利用である一方、弥富などは空きが出ており地区によって稼働率が異なっているのは感じている。

(委員)

稼働率みたいな指標もいいと思う。

(事務局)

稼働率を目標にできるかどうか担当課と相談して考えたい。

(委員)

図書館はこれだけ充実している、という行政の意気込みというか、そういう発信側の

指標があってもいい。

(事務局)

なるべく多くの市民に利用してもらいたいという思いもあってこの指標にしているが、そのご意見も持ち帰って検討したい。

(委員)

施策①に「デジタルを活用した様々な情報発信」とあるが、これは、デジタルコンテンツなどを作ってそれを使った学習を促進しようとしているのか、或いは様々な情報をデジタルで発信していくのか、どの辺を想定しているのか。

(社会教育課)

佐倉市ではデジタルアーカイブを導入した。コロナもあって導入したが、自宅からでも情報を入手できるシステムを導入したいという考え。

(委員)

市民の方々への学習機会の提供、それを学んだ市民が学校教育に携わるという有機的な連携が視点として入るといい。佐倉学の発信についても充実するなど、事業がうまく連携するような取り組みがあるといい。

(委員)

4章全体にいえることだが、地域への愛着を高めるといのは重要だと考えている。学校給食の充実と「食育」を結びつけ、最終的にはシビックプライドの醸成までいければいい。若い世代に結びつけられれば、もし転出してもUターンやふるさと納税などにつながると思う。

(事務局)

シビックプライドの醸成や地域への愛着を目的に佐倉学をやっているが、そこは重点施策で打ち出せるように検討したい。

(委員)

4-4 青少年健全育成について。指標②だが、これは青少年の数を言っているのか、それらに従事しているスタッフなどを含めた数なのか。

(事務局)

諸々の民間の活動に参加した数ということ、つまりこどもの数。

(委員)

青少年育成団体の取組についてよくなったかどうかイメージしづらいので、認知度

などで指標を工夫できないか。

(事務局)

青少年相談員は学校との結びつきが強いので児童への認知はできると思うが、その他市民への認知という点も難しい部分もあるかもしれない。担当課と協議したいと思う。

(委員)

4-5 スポーツ振興について。総合型スポーツクラブについては停滞しているところもあれば中学校の部活と連携して活動の場を広げているところもある。総合型スポーツクラブへの参加率などの指標はいかがか。

(生涯スポーツ課)

総合型スポーツクラブについては、佐倉市は1団体、主に岩名運動公園を中心に活動しており、内郷小学校に協力しているのだが1団体だけなので、全部の学校に何かできる状況ではない。ランニングを中心にしており、障害者・高齢者向けにウォーキングなどもやっているものの、例えばボッチャなどの普及はやっていない状況。

(委員)

新規にクラブを立ち上げるといった所の支援などが見えてくるといい。

(生涯スポーツ課)

体育協会の方で、様々な組織を作って会員になり、市の補助金を受けるといったのも増えてきている。その他、佐倉市にはスポーツ推進委員の方がいらっしゃるが、そちらの方々が地区で手軽にできるスポーツの普及、佐倉市全体でミニバレーボール大会を開催するなど新しいミニバレーの普及を、年に2回ぐらい、春と秋口にイベントを開いているんなスポーツの紹介などをやっている。

(3) 事務連絡

次回の審議会は、8月17日(木)の開催を予定している。

会議録について、会議終了後、要録を事務局で作成し、各委員に確認のうえ確定し、公表する手続きを取る。会議録の確認をお願いしたい。